

第  
5  
部

その他の活動

AUTRES ACTIVITÉS

東京大学五月祭出店  
2014年5月18日(土)～19日(日)

2014年5月18日(土)19日(日)、東京大学の学園祭「五月祭」に、日仏学生フォーラム (FFJE) として模擬店「屋台フランス」を出店した。仲を深めるのに絶好の機会だと13期メンバーから聞いた事で、私たち14期メンバーもはりきって準備を始めた。

せっかく模擬店を出すからには、「美味しいもの・フランスらしいもの」を販売したいと考え、14期メンバーでメニュー作りからでとことん話し合った。衛生基準、価格、味のどれも妥協したくないと意気込み、メンバーで集まり試作会を繰り返して出来上がったのが、当日売られたフレンチトーストのレシピである。

会議前に集まってトリコロールの看板を作成したこと、大量の食材、容器、機材を運搬したことなど、思い返せば当日の開店に至るまでの準備は大変なものだった。五月祭の模擬店で責任者を務めた経験があったことから、今回責任者となったが、計画がうまくいかず悩むことも多かった。そうした時に支えてくれたメンバーの温かさに本当に感謝している。

当日は好天に恵まれた。私たちの模擬店の場所、赤門すぐそばに朝8時前に集まりテントを立ち上げた時から、五月祭が始まった。しかし順風満帆ではなかった。当初の売上げが予想に及ばなかった1日目の夜に、売上げを増やすために明日はどうしようかと、みなで一生懸命考えたのを覚えている。いかにお客さんの目線に立ち、私たちのフレンチトーストを買いたいと思ってもらえるか、考えに考えた。アイスクリームを付けて売るという戦略、価格の見直し、声出しを積極的にやっていく心がけが功を奏し、2日目にはよく売れ、無事に黒字を達成することができた。今ここでしか食べられないものという点を強調し丁寧に接客することを心がけた成果だろう。

FFJEの来日プログラムでフランス側メンバーを迎える際にも、五月祭での私たちの姿勢が生きたのではないかと。今私たちにしかできない文化交流体験を13期14期メンバーと一緒にできたことを幸せに思う。



HEC との交流会

5月29日に、慶應義塾大学で交換留学生として学んでいるHEC(経営大学院)の学生たちとの交流会を行った。HECの留学生との交流はこれまでも行われてきたが、初めての試みとして今年は和食体験を行った。

日本で学んでいる彼らも、和食を作り食べる機会はあまりないのではないかと考え、典型的な日本の家庭料理を調理する交流会を企画した。交流会の目標は、日本で学ぶフランス人留学生と交流し、日本の家庭的な文化に触れてもらうことだった。五月祭の後であまり準備期間がない中ではあったが、所要時間などを見積もり、一部のメンバーで試作も行った。

献立は、巻き寿司、肉じゃが、鶏肉の照り焼き、豚汁、たこ焼きなど。最初にアイスブレイクを兼ねてたこ焼きを作り、和気あいあいとしたところで班ごとに一つの料理を担当した。外国人に馴染みの薄い食材を使うべきか、作りやすいものがあるのかなどを思案していたため、HECの学生たちが満足してくれて嬉しかった。

今回、料理を交流に使って良かった点が二つある。まず、料理をするという共通の目標があった事で会話がしやすかった。調理中は、レシピを一緒に読むところから始まり、調理器具の場所、使い方、役割分担など話す事は多くあり、その度に日本語、フランス語を混ぜながら会話をした。HECの学生たちは積極的に日本語を使おうと努めてくれ、私たちもフランス語や時には英語で受け答えした。食事中も様々な話で盛り上がり、短い時間であったが、交流会の目標は達成できたと感じている。

加えて、私たち日仏学生フォーラム (FFJE) のメンバーとしても、普段口にしていない日本料理について考え直す機会となった。例えば、準備の段階でレシピを翻訳する際に日本語特有の料理用語の訳し方に困り、日本の料理の特異性に気づかされた。寿司の巻きすやたこ焼き器の使い方は、他の文化には存在しない調理方法である。

調理時間と食事時間合わせて三時間足らずの交流会だったが、多くの方のご協力なくしては実現できなかった。交流の機会をいただいたことにこの場をお借りしてお礼申し上げたい。



## OBOG 会の開催

今年度で日仏学生フォーラム (FFJE) の活動の歴史は 14 年となった。その歴史の年輪が増えるに伴って、FFJE に関わってきた人々の数も増えていくこととなる。FFJE から社会へと旅立っていった OBOG は、それぞれに様々な分野で活躍の幅を広げている。FFJE で養った国際的な交流経験や対話力を軸として、日本国内のみならず、フランスを始めとした海外でのお仕事をされている方も多し。そうした OBOG との貴重な交流の機会である OBOG 会は、現役で活動するメンバーたちにとって、自分の将来を思い描く場ともなっている。また同時に、現在の私たちの FFJE での活動に対して、OBOG が現役時代に行ってきた活動を元にした有意義なアドバイスをくださる機会でもある。つまり、OBOG 会とは FFJE に関わる全ての人々の、過去と現在と未来のビジョンが邂逅するような場なのではないかと思う。時を経て、人と人との重なり合いによって、その味わいが深まっていく FFJE の繋がりの有り難さを実感するのが、OBOG 会での交流なのである。

FFJE における OBOG 会は、年に一度公式行事として執り行う総会と、年間を通じて随時開催する非公式の交流会の二種類がある。2 月 1 日に開催した OBOG 総会では、今年度より各担当者による年度活動を総括する発表を行うこととした。これまでの活動を見守り続けて、支えてきてくれた OBOG と日仏会館の先生方の前で、担当者それぞれによる年度を通じた活動の総括を行うような機会はあまりなかったので、日頃の感謝を伝える意味も含めた発表を行えたことで、13 期にとっては二年間の活動の最後の締めくくりとなる OBOG 総会の実施は、より感慨深いものとなったことだろう。

昨年度から活発化していた非公式での OBOG 会の活動については、本年度もその勢いを継続するように意識して開催した。本年度の非公式の OBOG 会の開催は、来日プログラム中に行われたものも含めて合計四回、約三ヶ月に一度のペースで行った。毎回の開催の度に、皆様に忙しい予定を割いていただき、多くの OBOG の方にお越し頂くことが出来た。

来年度からは私たち 13 期もまた OBOG の一員となる訳だが、後を託す頼もしい後輩の姿を見るにつけ、今後の OBOG 会への参加が待ち遠しくなってくる。後輩たちが日ごとに成長していく姿を見つめていくことが出来るのは、何よりの楽しみである。来年度以降の OBOG 会のさらなる発展を、心から祈っている。

